

<よくある質問＆回答>

①通学方法は、どうなっていますか。

⇒特別支援学級に在籍するお子さんは、「一人通学」を目指しています。最初は、玄関までお迎えに来てもらいますが、保護者の方と相談しながら、少しづつ距離を延ばしていきます。一人通学を確立するためには、情緒の安定、身辺自立、時間の管理、交通ルールの理解、困った時への対処の仕方などの事柄を一つ一つ身に付けていくことが大切になります。6年間で身に付けたいこと、今年できたらいいなと思うこと、今学期のめあて…など、少し先を見通したり、お子さんの現状を見たりしながら、保護者の方と協力して課題に取り組みます。

②通常学級との交流は、どのように行っていますか。

⇒お子さん一人一人のめあてに沿って行う給食交流・行事での交流などのほか、通常学級の児童の発達段階に応じた理解教育を行っています。今年度は、1学期に「梅組紹介動画」を作成し、梅組の子どもたちの自己紹介や生活・学習の様々な場面を配信して見てもらいました。コロナ禍だからこそ生まれた発想でもありました。また、梅組で取り組み始めて6年目になる「ボッチャ」を3年生児童と一緒に行う活動もしました。梅組の子どもたちの普段の表情が見てもらえる良い機会でした。

③1～6年までの児童がどうやって一緒に学習するのですか。

⇒時間割の中で、音楽・図工・体育・朝の会・生活単元学習などは、全員一緒に学習をしています（全体学習）。授業の後半に、課題別的小グループに分かれて活動することもあります。国語・算数については、学年や子どもたちの特性なども考慮した課題別のグループで学習しています（グループ学習）。グループの構成については、児童数・担任・介助員の人数によって毎年変わります。学校は集団での学びの場です。授業始まりの挨拶、期待感を持って順番に待つこと、年上の友だちのやっていることを見て「やってみたい」と思えること…など、文字や計算学習以外の日々の取り組みの大切さを感じています。

④クラブや委員会には参加していますか。

⇒クラブ活動は4年以上、委員会は5年以上が参加します。梅組の5・6年生は、現在全員保健委員会に所属しています。委員会の時間には、出席を取った後、石鹼容器の中身チェック、回収、洗浄の活動で校内を巡回します。校内の配置図に回収した容器の個数をメモする人、容器の蓋の開け閉めをする人、容器を洗う人、保健室に配達する人…通常学級児童と全部同じ活動ではありませんが、得意なことを生かした活動になっています。手洗いを推奨している現在は、容器の回収の頻度が高く、保健室の先生にも感謝されています。

⑤専門家の指導とは、どのような内容ですか。

⇒月に2回のST（言語聴覚士）、月に1回のOT（作業療法士）による巡回指導があります。STでは、先生と1対1のやり取りを通して、心を開放すること、粘り強く応答すること、伝えたいことを表現することの経験を積み重ねます。担任にとっては、子どもたちの心理や行動の意味の見取りなどを一緒に考えて頂ける心強い味方です。OTでは、子どもたちの体作りや目と手の協応動作の学習に有効な課題を巡回指導で毎回紹介して頂けるので、日常生活に取り入れるようにしています。体の感覚の捉えにくさを抱えている子どもたちも多く、動きやすい体を生涯に渡ってキープすることは重要な課題です。体を動かすことが好きな子どもに育てる事、やってみようという前向きな気持ちを育てること、希望をもって伝える力を育てること、自分自身の心や体を大切にする経験を積むことは、特別支援学級での大切な学習内容です。